第 2720 地区

熊本東南ロータリークラブ　週報

創立 1984 年 4 月 4 日

2023 ～ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

●会長　中島　祐爾
●幹事　緒方　公一

No.1848　令和 06 年 01 月 31 日　第 25 回例会

※例会日　毎週水曜日　１２：３０～
※例会場　〒８６０－０８４６　熊本市中央区城東町４の２　熊本ホテルキャッスル内
※事務所　〒８６０－０８４６　熊本市中央区城東町４の２　熊本ホテルキャッスル内　TEL 354-4521　FAX 354-4053
※ URL　https://www.serc2720.org　※ email　serc@serc2720.org

■職場訪問例会

熊本洋学校教師ジェーンズ邸

■会長の時間（会長　中島祐爾）

地区補助金セミナー報告／ポリオについて

(4) 世界ポリオ根絶推進計画（GPEI:Global Polio Eradication Initiative）

世界ポリオ根絶推進計画（GPEI）は、ロータリー、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センター（CDC）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gaviワクチンアライアンス、そして各国政府を含む官民共同の取り組みである。ロータリーは主に、アドボカシー、ファンドレイジング、ボランティアの動員、認識向上における重要な役割を担っています。

19. ポリオの現況

現在も野生株ポリオ・ウイルスによる感染が続いているのは、パキスタン、アフガニスタンの２ヵ国となっている。2016年に報告された野生株ポリオ・ウイルスによる発症数は37件となっており、毎日約1,000件の発症が確認されていた1980年代と比較すると99.9%以上の減少となりました。又、2021.１～2021.６までの半年で野生株のポリオ発症は、パキスタン・アフガニスタンのそれぞれ１例の２症例となっています。

【野生株によるポリオ症例数】

掲載サイト:GPEIウェブサイト（英語）

ポリオ	国	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020年
常在国	パキスタン	93	306	54	20	8	12	147	84
	アフガニスタン	14	28	20	13	14	21	29	56
	ナイジェリア	53	6	0	4	0	0	0	0
常在国以外	赤道ギニア	0	5	0	0	0	0	0	0
	イラク	0	2	0	0	0	0	0	0
	カメルーン	4	5	0	0	0	0	0	0
	シリア	35	1	0	0	0	0	0	0
	エチオピア	9	1	0	0	0	0	0	0
	ソマリア	194	5	0	0	0	0	0	0
	ケニア	14	0	0	0	0	0	0	0
	世界合計	416	359	74	37	22	33	176	140

※2020.8.25ナイジェリアは、野生型ポリオウイルスの根絶が認定される。　（出典:ロータリー財団室NEWS）

2021 / 2022 － 30
2022－2023 － 12

(1) 課題

残る0.1%のポリオとの闘いが最も困難であると言われています。これは、遠隔地、不十分な公共インフラ、紛争、文化的障壁といった要因が、予防接種活動の妨げとなっているためであり、ポリオを根絶するまでは、世界中の国が再発生のリスクにさらされています。

(2) ポリオを根絶するために

ロータリーは、2017年７月より３年間で毎年5,000万米ドルを集めるファンドレイジングを行っています。ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのパートナーシップにより、ロータリーからの

24

■幹事報告（幹事　緒方公一）

■来信案内

１）

RI 第 2720 地区 2024 ～ 2025 年度 三村彰吾ガバナー、硯川昭一 地区ラーニングファシリテーター、西山晃史 地区幹事より、地区研修・協議会の案内。

日時　２０２４年４月７日（日）９：００登録開始、
　　１０：００～１６：００地区研修・協議会
場所　熊本城ホール
出席義務者　次年度地区部門長・委員長、
　　次年度クラブ会長・幹事・委員長
登録料　５０００円

２）

国際ロータリー第 2720 地区 2023 － 24 地区大会実行委員会より、地区大会の案内。

日時　２０２４年５月１７日（金）～１８日（土）
会場　１７日パトリア日田・日田温泉小京都の宿 みくまホテル
　　１８日パトリア日田・マリエールオークパイン日田

■クラブより

１）

第７回臨時理事会報告。

■今後の地区行事

2024	２月 24 日（土）	RLI 卒後コース	大分県日田市	AOSE
		案内中		
	３月２日（土）～３日（日）	会長エレクト研修セミナー	熊本県熊本市	熊本城ホール、ホテル日航熊本
		山田公也、前田日出夫、古田哲朗		
	３月２日（土）	中津 RC 創立 70 周年記念式典・祝賀会	大分県中津市	ヴィラルーチェ
		案内中		
	４月７日（日）	地区研修・協議会	熊本県熊本市	熊本城ホール
		新着		
	５月 17 日（金）～18 日（土）	地区大会	大分県日田市	パトリア日田・日田温泉小京都の宿 みくまホテル
		新着		

■出席報告

（出席・プログラム担当　松田和成）

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率（%）
01 月 17 日	42 （免 3） 39	30	3	33	84.62
01 月 31 日	42 （免 4） 38	32			84.21

☆出席免除

01 月 17 日

住江正治　島村徹男　永野昭一

01 月 31 日

住江正治　島村徹男　志賀重人　永野昭一

☆欠席者

01 月 17 日（5 名）

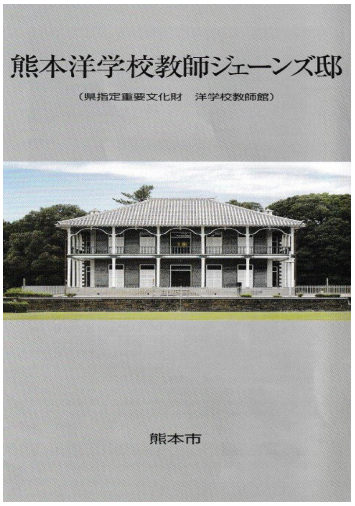
出先教明、井村宣敏、川崎直樹、小野川善久、武末直大

■委員会報告

（職業奉仕担当　古田哲朗）

本日の職場訪問について

■「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」見学



リロイ・ランシング・ジェーンズ（1837-1909）

アメリカ合衆国オハイオ州に生まれ、ウエストポイント陸軍士官学校を卒業、南北戦争（1861-65）では北軍の将校として参戦、功績をあげて大尉に昇進しました。戦後は退役しメリーランド州で農業をしていましたが、熊本洋学校教師として招聘を受け、明治４年（1871年）８月に熊本にやってきます。９月から授業を開始し、明治９年（1876年）の熊本洋学校の閉校まで熊本の若者たちの教育にあたりました。熊本を去った後は大阪英語学校に赴任し、明治11年（1878年）７月に帰国します。明治42年（1909年）３月27日に心臓発作で死去。遺言により遺体は火葬され、サンフランシスコのライト山上に散骨されました。

ジェーンズの招聘に尽力したのは小楠の甥である横井大平です。熊本藩では洋学校を作って藩の子弟に本格的な洋学教育を施そうとしましたが、教師の人選に困っていました。そこに体を悪くして帰国していた横井大平が助言し、太平の師であるフルベッキに依頼して、ジェーンズの来日が実現しました。

ジェーンズの功績と教え子たち

ジェーンズは全ての授業を英語で行ったほか、生徒の栄養改善のため牛肉食の推奨などをしました。他にも、女生徒の授業への参加を認め、熊本の人々のために『生産初歩』を著すなど、熊本に大きな足跡を残しました。彼の教え子たちも様々な分野で功績を残し、近代日本の発展を支えました。

主な教え子には、九州帝国大学工科大学初代学長の中原淳蔵、東京農業大学初代学長の横井時敬、大江義塾創設者の徳富蘇峰、日本基督教会を支えた海老名弾正、小崎弘道、宮川経輝、九州学院初代院長の遠山参良、朝鮮銀行総裁の市原盛宏、同志社で総長を務めた横井時雄などがいます。僅か５年の間でこれだけの人材を輩出したことは驚異的です。

明治４年　新築当時の洋学校教師館（長崎大学附属図書館蔵）

洋学校教師館の歴史

(1)　ジェーンズ居住時代

熊本洋学校教師ジェーンズ邸は、明治４年（1871年）に開学した熊本洋学校に外国人教師ジェーンズを迎えるため、古城（現在の熊本県立第一高校）に建築された、熊本県に現存する最古の洋風建築です。この建物は建坪約70坪、正面10間、奥行７間の総２階で正面と両翼の途中までベランダをめぐらせ、すべての場所に鎧戸が、２階ベランダの出口には色ガラスが付いていました。完成当初、煙突はありませんでしたが、ジェーンズの要望により建物両側面に煙突が追加されました。炊事場やトイレは建物裏の別棟にありました。洋館の特徴が見られる一方で、屋根は瓦葺、小屋組みは伝統的な和組、本来石で組む隅の装飾は左官技術による漆喰仕上げになっているなど、日本の伝統的な建築技法が用いられた「擬洋風建築」であることがわかります。

洋学校の教育は隣接する校舎で行われましたが、この邸宅ではジェーンズの妻・ハリエット夫人による子女への教育や、ジェーンズによる聖書研究会などが行われました。また、親しい人々を招いてクリスマスパーティーなども開かれました。

明治９年（1876年）にキリスト教に傾倒した教え子たち（後に多くが同志社英学校に進み“熊本バンド”と呼ばれる）が花岡山山頂で結盟を結んだことに端を発する騒動の中で、ジェーンズは洋学校教師の職を解かれ同年10月に熊本を離れました。それからすぐに神風連の変が起こり、ジェーンズは襲撃対象の一人であったとも言われており、もう少し滞在が伸びていたら被害を受けていたかもしれません。

(2)　西南戦争と博愛社の設立

明治10年（1877年）に西南戦争がはじまると、熊本城は薩摩軍の攻撃を受けます。古城にも被害がありましたが、幸いにも洋学校教師館は戦火を免れました。４月14日に熊本城の包囲が解けると、征討総督有栖川宮熾仁親王も入城され、教師館は御宿所に充てられました。ちょうどその頃、元老院議官佐野常民らは、敵味方の別なく救済することを考えていました。征討総督の許可があればその活動ができる見込みが付くと、このことを熾仁親王に願い出ます。５月３日にその許可が下り、早速博愛社を設立し、救護活動を開始します。これが日本赤十字社の前身となりました。

西南戦争後、教師館は県の職員官舎や軍の将校官舎として利用されました。

(3)　南千反畑時代（県施設時代）

明治27年（1894年）、当時県庁があった南千反畑町に移築されました。移築当初は集議所洋館として迎賓館のような役割が与えられましたが、その後も熊本県により様々な形で利用されていきます。明治31年（1898年）に熊本工業学校（現熊本県立工業高等学校）が開校するとその校長室、教務室として、明治36年（1903年）に県立女学校（現熊本県立第一高等学校）が設立されると仮校舎として、日露戦争の際にはロシア人将校の収容所として、第一次世界大戦の際にはドイツ人将校の収容所として利用されました。

(4)　水道町時代（日赤支部時代）

昭和７年（1932年）、日本赤十字社は教師館が日赤と深い関りを持っている建物であることから熊本県に願い出て建物を譲渡してもらい、当時水道町にあった日赤熊本病院院内に移築し、日赤記念館及び日赤熊本県支部事務所として利用しました。昭和20年（1945年）の空襲でも難を逃れ、昭和42年（1967年）まで日赤の県支部及び血液センターとして利用されました。しかし、日赤の事業拡大によって手狭となり、建物の移築が問題となりました。

(5)　水前寺公園時代（動物園跡地）

建物は昭和43年（1968年）に日赤から熊本市へと譲渡され、昭和45年（1970年）に水前寺成趣園横の動物園跡地に移築されました。移築に伴い文化財としての調査が行われ、同年に熊本市指定有形文化財、翌年に熊本県指定重要文化財になりました。内部では建物の歴史や熊本洋学校、日赤についての展示を行っていましたが、老朽化等で傷みが激しく根本的な修復が必要になっていました。

(6)　水前寺公園時代（電車通り沿い）

そのような中で平成28年熊本地震が発生、建物は倒壊しました。しかし、倒壊直後から有志の手により部材及び展示資料の保存のためにブルーシートがかけられ、後に巨大なテントも寄贈されました。その結果、一部の歴史資料は失われたものの、資料や部材の多くを救出することが出来ました。再建に際しては様々な議論があったものの、電車通り沿いの水前寺公園内（現在地）に移築することが決まりました。部材や文献の調査を反映して煙突や鼠漆喰、塗装色などを復原し、建築当初の姿に近づけました。そして令和５年（2023年）９月に再開館を迎えました。

平成28年熊本地震で倒壊した熊本洋学校教師ジェーンズ邸

■解散

人びとと自分の人生を豊かにする職業奉仕

投稿日 : 1 月 24, 2024 投稿者 : Rotary Japan
寄稿者:Mahiuddin Palash（バングラデシュ、Dhaka Midtown ロータリークラブ会員、第 3281 地区職業奉仕委員長）

私たちのこれまでのロータリーでの旅路を振り返ってみましょう。私たちは、笑顔が素敵だから、または性格がよいから入会を誘われたわけではありません。変化をもたらすために活かせる職業のスキルがあるから、奉仕へのコミットメントを共有しているからです。それは職業奉仕から始まったのです。第 3281 地区（バングラデシュ）の 2023-24 年度職業奉仕委員長として、また 28 年来のロータリアンとして、私はこの哲学が持つ変革力（transformative power）をこの目で見てきました。

職業奉仕がいかに私の職業人生を豊かにしてきたかを以下にご紹介し、皆さまも地域社会に持続的な変化をもたらすためにスキルを活かすことをお勧めしたいと思います。

職業奉仕の実践

ほかの奉仕団体と違い、ロータリーはボランティア奉仕だけに焦点を当てていません。ロータリーでは、職業の専門性、つまり各自が得意とするスキルを奉仕に活かすことが重視されています。これは、すべてのクラブにとって重要なことです。それと同時に、職業奉仕は、ロータリーで、生活で、職場で、私たちが行うすべてのことに高い倫理基準を適用することでもあります。

職業奉仕は以下のことを奨励し、助長します。

・職業上の高い倫理基準
・役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
・社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

これらの理念は、以下のかたちで実践できます：

学びを通じたエンパワメント：
私のキャリアは、通信会社の戦略的マーケティング部での仕事から始まりました。マーケティングについての教育はゼロでしたが、ローターアクターだったため、有名なマーケティング経営コンサルタントだった今は亡きパストガバナーとのセッションに何度も参加し、キャリアでの成功に必要なスキルを身につけることができました。ローターアクトでの職業能力開発、そしてロータリーでの職業奉仕から私は恩恵を受けてきました。

職業を活かして地域社会のニーズに取り組む：
もう一つの素晴らしい事例をご紹介します。医師のあるロータリアンは、ほかの熱心なロータリアンたちとともに、1981 年、当時バングラデシュで唯一の第三次がん病院を設立しました。この病院は 1986 年に国営となり、国立がん研究所兼病院となりました。この国では毎年 20 万人ががんと診断され、15 万人が亡くなっています。職業のスキルが人びとの人生を変える奉仕へとつながった例と言えます。

ロータリーの基本理念と高潔さでインスピレーションを生み出す：
バングラデシュの多くのクラブは、職業の才能を役立てて地域社会に貢献した市民に「職業優秀賞」を贈っています。この賞は、人びとから栄誉とみなされています。

若い人たちの成長の場としてのロータリーを推進する：
ロータリーに入会し、とどまる理由として「奉仕」と「親睦」がよく挙げられますが、「職業的成長と人間的成長」は、非常に重要であるにもかかわらず、若い会員の入会と維持の方法として見過ごされがちです。私が若い社会人だった時にはこれが重要でした。通信業界は競争が激しく、この業界でのキャリアには人脈、市場ダイナミクスへの理解、満たされていないニーズの特定、ビジネスインテリジェンスなどが必要とされます。ロータリーの人脈のおかげで、会社やキャリアの成功に必要な力が磨かれました。

ほかの国での職業奉仕の活動例もご紹介します：

Birmingham ロータリークラブ（米国）では、ローターアクトクラブのメンタリングプログラムを通じてローターアクターとロータリアンがペアとなり、職業人として、市民として、個人としての関係を培っています。この活動を通じて、ローターアクターがキャリアや業界についてロータリアンから学び、ロータリアンも職業の知識を若い世代と分かち合いながら多くのことを学べます。
Tamar Hong Kong ロータリー E クラブ（香港）では、キャリアと生活のバランスをよりよく取ることについて、若い社会人対象のセミナーを企画しました。旅行業、宝石販売業、エンターテイメント業、起業家など、会員がさまざまな業界の知恵をシェアしたほか、履歴書の書き方や面接に関する指導を行いました。
南アフリカの地区は、教員から成る職業研修チーム（VTT）を他国に派遣しました。これにより、教員たちのスキルが高まっただけでなく、大学入学試験に合格する高校生の数も増えました。
私自身の体験、そしてこれらの事例は、職業の専門性とロータリーの奉仕の精神を結びつけることで実現できるインパクトを物語っています。皆さんが職業奉仕の本における自分の章を書くなら、どんな内容になるでしょうか？

バングラデシュのロータリークラブがローターアクター向けに開催したキャリア開発セミナー

ウクライナの人びとに義肢を

投稿日 : 1 月 22, 2024 投稿者 : Rotary Japan

多くのサポートを得て実現した奉仕プロジェクト

寄稿者：倉金 由幸（さいたま大空ロータリークラブ会員）

友人を介してアイデアが形に

このプロジェクトが生まれたのは、クラブの 2023 – 24 年度の国際奉仕活動として何をするかを話し合っていた会議でした。

第 2770 地区ではロータリー財団の地区補助金の通常枠とは別に、グローバル補助金事業につながる、また同様な考え方をクラブに体験してもらうことを目的とした地区補助金の大口枠があります。

当クラブは、多国籍の会員がいるというクラブの特色を生かして、通常枠での国際奉仕活動に並んで大口枠でスリランカ、モンゴルなどで奉仕活動を重ねてきました。

今年度、どこで何をしようか思い悩んでいたところ、当クラブの小口会員より「国連職員の友人がキーウのロータリークラブに参加しているので、ウクライナでの奉仕活動先を探ることができる」と提案してくれました。

その友人を介して、キーウ・マルチナショナル・ロータリークラブとのパートナーシップのもと、国営義肢成型センターに 3D スキャナーを送るプロジェクトに取り組むことになりました。

3D スキャナーを寄贈することで、義肢 1 本の製作に 40 万円、数週間かかっていたところ、義肢 1 本 4 万円で 3 日で製作が可能となります。

このプロジェクトはカナダで購入した 3D スキャナーを 1 月にウクライナに行く小口会員のもう一人の友人に託し、手渡しで行ってもらうことになっています。

研究会で募金を呼びかけ

無事、地区補助金の大口枠の権利を得て 3D スキャナー寄贈のプロジェクトは進みましたが、それでも義肢作成費の約 4 万円はウクライナではとても高額です。

さらに踏み込んだ活動として、ウクライナの人びとのための義肢製作費用を募ることにしました。このプロジェクトをさいたま新都心ロータリークラブの井原パストガバナーに相談したところ、11 月に神戸で行われるロータリー研究会の「奉仕体験の相手先内容紹介」のプログラムでこのプロジェクトを発表して、昼食会場での募金活動をしては？とご提案をいただきました。

ロータリー研究会当日は小口会員の素晴らしい発表とたくさんの方のご協力により、大変大きな金額の寄付が集まりました。

ロータリークラブの凄さを実感した瞬間でした。

現地の会員を通じて子どもたちにクリスマスプレゼント

興奮も冷めやらぬ 11 月末、しばらく連絡が取れなかったキーウ・マルチナショナル・ロータリークラブのアナトーリ会長と連絡が付きました。

かねてから、第 3 グループ（大宮、大宮南、大宮中央、大宮シティ、さいたま欅、さいたま大空の 6 つの RC が所属）でウクライナ支援募金活動を行ってきましたが、いただいた義援金の送り先として、ウクライナの子どもたちへのクリスマスプレゼントを贈る活動への参加をアナトーリ会長から打診されました。

プレゼントは、低所得で大家族の子、戦争で親を亡くした子、障害児、占領地域または軍事作戦地帯の子どもたちを中心に、10 日間 22 カ所で延べ 1000 人の子供たちに贈られました。私たち第 3 グループからは、ベラルーシに近く、被害を受けているチェルニヒウという町で子どもたちにクリスマスプレゼントのお菓子などを 320 人にプレゼントすることができました。

写真から伝わってくるシェルター内での様子と子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

行動すれば実現でき、実現すれば感動できる

今回一連の奉仕活動（現在進行中ですが）での経験ですが、何ができるか考えて、行動して、相談すれば、自分の想像を超えたことが実現可能だと改めて感じました。

大切なのは、自ら動くこと。そしてそれが感動につながっていること。

はじめはクラブで決め、それがグループでの活動になり、地区での活動から全国での活動につながって、3D スキャナーの寄贈、義肢製作費用の寄付、子どもたちへのクリスマスプレゼントが実現しました。

ご協力くださったすべての方に感謝の気持ちとお礼の言葉を伝えたいと思います。ありがとうございました。

ロータリーボイスより